会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 共通基盤整備事業合同委員会（第6回実施委員会・第3回運営委員会） |
| 開催日時 | 令和4年2月28日（月）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | 沖縄　みんなの会議室（オンライン会議併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：岡村　慎一（オンライン参加）五十部　昌克、松田　義弘、増子　卓矢、谷　昌一、川越　浩、山根　大助、沖　直彦、安田　実、松本 晴輝藤井　達也　　　　　　　　　　　　　　　　　　計12名請負業者：八木　信幸、飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　計2名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計14名 |
| 議題等 | 1. 今年度の予定のアウトプット（年度目標の確認と報告書）

(1) 自己点検・評価標準モデル（仮称）検証および完成版開発・今年度の成果として『自己点検・評価モデル【共通的評価基準モデル2022】』とその手引きを作成中。（五十部）・2021年度版をもとに『自己点検・評価モデル【共通的評価基準モデル2022】』を作成。こちらが完成版になる予定。（八木）・『自己点検・評価モデル利用の手引き』について資料をもとに説明。（八木）・『自己点検・評価モデル【共通的評価基準モデル2022】』については、昨年実施したアンケート調査の結果をもとに反映している。その点が修正点となる。（五十部）・自己点検・評価モデルの検証手順について資料をもとに説明。（八木）【意見等】・色付けされている部分は重要なポイントだと思うが、成果物はカラー印刷になるのか。（五十部）→カラー印刷をする予定。（八木）・手引きの中で、今の時点で不安な部分はあるか。（高岡）→不安な部分については事前に相談させていただいた。現状はない。（八木）・JAMOTECの報告書内に写真がないが。（高岡）→後ほど追加する。（八木）(2) 第三者評価に関する取り組み（五十部）・第三者評価に関する実態調査については、当初5機関を予定していたが、先方との都合が合わず、調査対象から外したため、4機関でのまとめとなった。・第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプ版(仮称)については、タイトルを『第三者評価機関に関する調査および第三者評価認証簡略化モデル』に変更することとなった。・『第三者評価機関に関する調査および第三者評価認証簡略化モデル』について資料をもとに説明。（八木）1：01【意見等】・簡易版ということで、職実、就学支援を外したが、外した項目については完全に抜けてしまうのか。（谷）→今回は提案として意識的に敷居を低くするためのものなので、外した項目については今後検討したい。（八木）→今後文科省の意向を汲み取りながら今後の課題として検討していきたい。（岡村）・費用対効果についての表現はどうか。（五十部）→違和感はないが、コスト削減したからいいというわけではないので、読み手の意識を高めるためにも、第三者評価の効果を高める取り組みとして○○を継続していくなどの文章を追記したらどうか。（松本）→費用対効果という言葉を使うと効果検証をする必要が出てくると考えるがどうか。（山根）→他の適正な表現があれば変更する。第三者評価の普及を図るためにハードルを下げる表現、説明の仕方が重要。（八木）→費用よりも労力の削減が目的になるのでは。（高岡）→経済的な部分で話をしようとすると、専門学校は補助金もなく義務化もされていないのでメリットがない。文科省としては補助金をすぐ出すことはできないが、投資に見合う対応をしたいと考えている。職実や就学支援を申請している学校は人的コストがかからないような軽減策に動くのではないかと考えている。そのような部分を見定めることが重要。（岡村）→意図の説明を検討する。（八木）・現在ある第三者評価機関とのすみわけをどのようにするのか。（藤井）→各評価機関がそれぞれ検討することになると考える。（八木）→第三者評価を普及するためには今回提案するような時代の変遷で変わったものを取り込んで簡略化して質向上が図れる評価を第三者がするというシステムを取り入れると良いという流れになればと考えている。また現在大核で行っているように、ブロック単位で相互に第三者評価ができるような体制を提案する際、この簡略版で実施すれば職実・就学支援以外の部分で質向上を図っていける。今後の普及のためにも質保証人材の教育プログラムが必要だと感じている。（岡村）・(3)成果物の発送について（五十部）・職実課程を持っている学校、委員、視察先とする。(4)成果物のデータとりまとめについて（飯塚）・成果報告データはまだ時間があるが、成果物のデータは印刷工程があるので、3月2日までに完成をお願いしたい。また、状況によって印刷物を1色にしなくてはならなくなるので、そこは了承いただきたい。(5)まとめと感想・ご意見・まとめについて資料をもとに説明。（五十部）【感想・ご意見等】・皆さんのご意見などを伺って大変勉強になった。この事業での成果を自校でそのように活用できるか今後検討していきたい。（谷）・この事業を通して第三者評価について大変勉強になった。1年ありがとうございました。（山根）・来年度少しでも力になれるように頑張っていきたい。（川越）・来年は3年目となるのでお役に立てることがあれば頑張っていきたい。（松田）・次年度引き続き内容をしっかり確認し進めていきたい。（増子）・八木先生の一石を投じた部分については同感した。簡略化という言葉で力強くシンプルにという意味で捉えてもらえればいいと感じた。（安田）・初めてこのような事業に参加したが、外側からの視点という意味で大変勉強になった。自校でも必要性重要性を理解できるように伝えていきたいと感じた。（沖）・このような取り組みを設計する際に、資料を完成させることが目的になってしまいがちだが、この事業での根本的な目的は学生の成長のためだと考えているので、今後そのような視点を盛り込んでいくとさらに良いものになるのではと考えている。（松本）・途中からの参加だったが非常に勉強になった。（藤井）・成果物の完成に向け頑張りたい。（八木）・八木先生、五十部先生には大変ご尽力いただいた。この事業を通していろいろなことを考える機会をいただいた。専門学校が好きでこの仕事をしているが、やっとこの事業を通して専門学校と繋がっているような気持ちでやらせていただいている。来年度もよろしくお願いしたい。（高岡）・松本さんがおっしゃたように学生のためにとなると100点満点がなくあれもこれもと欲が出てくるので、この事業、またその先の事業でもぜひ皆さんにご協力いただきたい。（岡村）・この事業については勉強しながらであり、またリーダーも初めてだったので反省している。来年度も引き続くことができたら足を引っ張らないようがんばっていきたい。1年間ありがとうございました。（五十部） |
| 配布資料 | ・合同会議用資料\_20220228・モデル研修開発のためのアンケート調査協力のお願い・自己点検・評価モデル利用の手引き\_20220228 |

以上